

下痢や腹痛、発熱などが長引いている患者さんはいらっしゃいませんか？ 炎症性腸疾患 (IBD) の可能性を念頭に検査を行うことが重要です

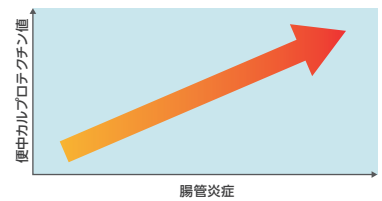
慢性的な腹部症状の原因として一過性の腸炎のほかにも過敏性腸症候群 (IBS) や、潰瘍性大腸炎 (UC) やクローン病 (CD) を代表とする炎症性腸疾患 (IBD) の可能性が考えられます。IBD は慢性の炎症性疾患となるため、患者さんのためには早期の診断と治療介入が重要です。

便中カルプロテクチン検査によって腸管炎症を把握することが可能です

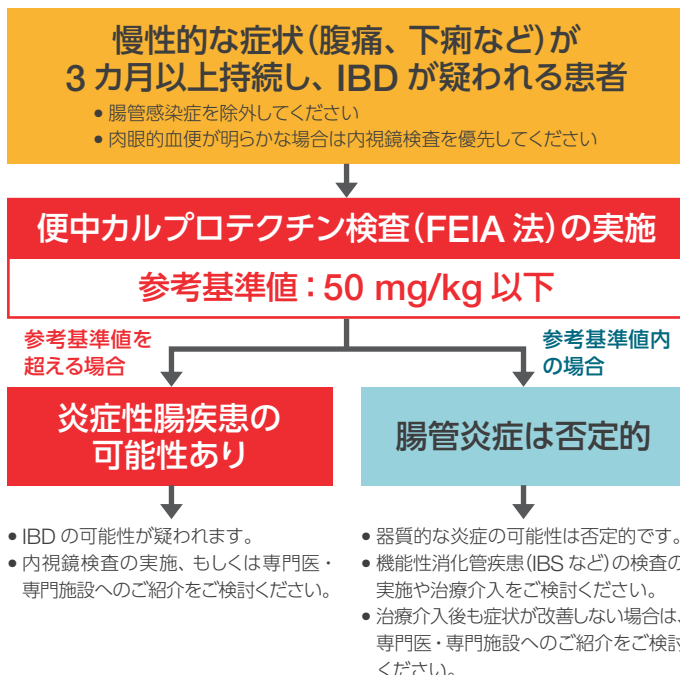
IBD の患者数は年々増加しており、日常診療で IBD 患者に遭遇する機会も増えていることから、IBD の可能性を疑い、腸管の炎症状態を把握するための検査を早期に実施することが重要です。IBD の確定診断のためには内視鏡検査の実施が必要ですが、内視鏡検査をすべき患者さんを選択するために便中カルプロテクチン検査が役立ちます。

便中カルプロテクチン (FC : Fecal Calprotectin) とは

カルプロテクチンは好中球に含まれるタンパク質です。腸管に炎症が起こると炎症部位に好中球が集まることから、炎症の度合いに応じて便に含まれるカルプロテクチンの量が増加します¹⁾。



便中カルプロテクチン検査の使い方の例



自験例のご紹介

症例① 潰瘍性大腸炎 (UC) の診断に役立った例

10 歳代女性。他院で IBS として長期的に整腸剤・止痢剤などで加療をうけていたが改善せず初診。採血などでは異常を認めないものの、便中カルプロテクチン検査の結果が **260 mg/kg** と上昇を認めたため大腸内視鏡検査を勧め、UC と診断できた。

症例② 大腸内視鏡検査をすべきかどうかの判断に役立った例

慢性的な腹痛症のある 10 歳代男性。食後の疼痛と慢性腹痛で初診。IBD を疑い、上部内視鏡検査と便中カルプロテクチン検査を実施するも、いずれも異常を認めなかった。腸管炎症は否定的と判断し、他の精査を行った結果、甲状腺機能亢進症だった。

症例③ 大腸内視鏡検査の実施と確定診断に役立った例

1 カ月続く腹痛と微熱で受診した 20 歳代女性。腹部症状と微熱に加えて皮疹の出現と消退を繰り返したため、IBD を念頭に便中カルプロテクチン検査を実施したところ **192 mg/kg** と陽性であったため、大腸内視鏡検査を実施。精査にて腸管バーチェットと診断した。



監修

岩本 史光 先生

いわもと内科おなかクリニック 院長

便中カルプロテクチン検査の特徴

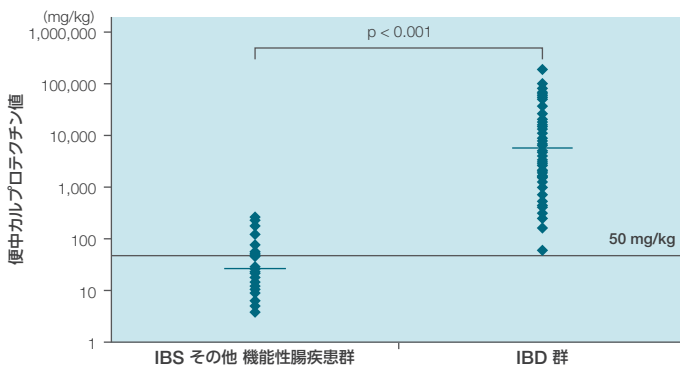
- 便中カルプロテクチン検査は「機能性消化管疾患診療ガイドライン 2020(改訂版)」、「便通異常症診療ガイドライン 2023(慢性下痢症)」において、IBDとIBSの鑑別に有用であると記載されています^{2,3)}。
- 便検査のため、腸管の炎症を特異的に把握することが可能です⁴⁾。
CRPなどの血液検査は全身の炎症を反映しますが、便中カルプロテクチン検査は腸管の炎症を特異的に把握します。
- 患者さんの身体的負担が少ない検査です。
便を採取することで検査が可能です。そのため、内視鏡検査の実施が難しい小児の患者さんや妊娠中の患者さんでも安心して検査いただけます。



FEIA法の参考基準値は内視鏡検査による評価に基づいて設定されています

FEIA法による便中カルプロテクチン検査の結果は、IBD診療のゴールドスタンダードである内視鏡検査による腸管炎症度評価と相関すると報告されています^{5,6)}。内視鏡検査の実施が難しい場合でも、FEIA法による便中カルプロテクチン検査を実施することで腸管炎症の度合いを確認することが可能です。

IBDの診断補助における臨床性能⁵⁾



参考基準値 50 mg/kg 以下とした場合			
臨床的感度	臨床的特異度	陽性的中率	陰性的中率
100% (91/91)	74% (26/35)	91% (91/100)	100% (26/26)

臨床症状があり、内視鏡検査の結果 IBS と診断された群を IBS 群 (35 例)、臨床症状および内視鏡的活動を認めた UC・CD の患者群を IBD 群とした (UC 73 例、CD 18 例) とし、陰性例は全て IBS 群だった。

参考文献

- 1) Roseth AG, Schemidt PN, Fagerhol MK. Scand J Gastroenterol 1999; 34: 50-54.
- 2) 機能性消化管疾患診療ガイドライン 2020(改訂第2版)
- 3) 便通異常症診療ガイドライン 2023(慢性下痢症)

- 4) 吉松裕介 他. 医学のあゆみ 2017; 263(13): 1043-1049.
- 5) 松岡克善 他. 医学と薬学 2017; 74(6): 717-26.
- 6) F Iwamoto, et al. J Gastroenterol Hepatol 2018 Dec; 33(12): 1984-1989.

検査の紹介
動画はこちら

IBD 診療における便中カルプロテクチン
検査の有用性とその活用法(約 10 分)
thermofisher.com/calpro10min



Learn more at thermofisher.com/hcp-jp

thermo scientific

サーモフィッシャーダイアグノスティクス株式会社
〒108-0023 東京都港区芝浦 4-2-8 住友不動産三田ツインビル東館
✉ info-jp.idd@thermofisher.com